様式(細則5-2)

平成３１年４月２６日

浜田市議会議長　川　神　裕　司　様

議員名　芦　谷　英　夫

調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため、研修を受講したので、その結果を報告します。

記

１、期　　間　　平成３１年４月２０日（土）１７時３０分～２０時３０分

２、視察内容　　つわのスープ

３、視 察 先　　津和野町（藩校養老館）

４、調査経費　　交通費　　１，５３０円（ガソリン代）

　　参加料　　１，０００円

５、調査研究活動の概要　　別紙のとおり

浜田市議会
受付
31.4.26

「つわのスープ」出席のため

平成３１年４月２６日

１　日　　時　　平成３１年４月２０日（土）１７時３０分～２０時３０分

２　場　　所　　津和野町（藩校養老館）

３　概　　要

① この催しは、２０１０年に始まった「デトロイトスープ」にならって「つわのスープ」として開催されたもので、参加者が１０００円の参加料を負担し、発表を聞いて応援したいアイデアに投票するもので、賞金総額５７０００円６３人が投票した。

② 「デトロイトスープ」は、アーティスト同士が意見交換や交流する場として生まれ、月一度開かれ食事会の費用は５ドル（スープとサラダ付き）で、まちを活性化するためのいろいろなアイデアを持ち寄りプレゼンし、食事会の最後に応援したいアイデアに投票し優勝者には参加費として集められたお金が贈られるものである。

③ 発表は『全国の大学生が出会い繋がり学びあう「留学プログラム」をつくりたい！』『高津川流域と都市部の「ヒト・モノ・コト」をつなぎ、ファンを増やす』『名も無き人の宣言―この町で生きる理由』『津和野×本の可能性を考える！本を通じた人のつながりを！』『世界征服のすすめ」―ハレルヤの周りの日常は、変わり始めています』の５つが行われた。

④ 参加者による投票の結果、優勝者は同数で２組となり、津和野町の歴史ある伝統文化や人柄などに感銘を受けた経験から、大学生を対象として地元事業者などから地域の話を聞く留学プランを提案した『全国の大学生が出会い繋がり学びあう「留学プログラム」をつくりたい！』が選ばれた。

⑤ もう１組は、地域おこし協力隊として津和野町に３年間活動した経験から、家族のように接する町民に感動し、町外から来訪する人との同じような関係づくりをするゲストハウスの整備計画を提案した『名も無き人の宣言―この町で生きる理由』が選ばれ、これら２組３人には、賞金２万８５００円が贈られた。

⑥ そのほかの３組は、清流日本一の高津川と都市部とを「ヒト・モノ・コト」でつなぐことの具体的な提案をもってこの地方のファンを増やす、このまちに住む人がそれぞれ思い思いのところに「本棚」をつくり本を媒体として交流を進める、お互いがほめたたえ合うことで住民の融和、コミュニティづくりを進める、などが提案された。

５　所　　見

① この催しには、関係者も含め約１００人が参加したが、若い人が多く、ほぼ現役世代の人であり、浜田市として県立大学も含め若い人の地域づくりや市政参加を進めるうえで、参考となる取り組みであった。

② 県立大学では地域おこし協力隊に着目し、彼らとの協働を模索し地域課題の有力な解決手段を探るとしてフォーラムを開催している。また、地域課題研究成果の発表会も開催されており、これら県立大学の取り組みと行政との連携を強める必要がある。

③ 市民と行政が協調・連携し新しい市政を創造することが求められ、そのため、市民のこれまでの役所任せではなく、市民の積極的な行政への参加と自主的・自立的な活動が重要で、ここから生まれる市民のアイデアを行政に生かすことが必要である。

④ この催しのような「市民参加」は重要であり、市民参加は行政ポーズや単なる施策であってはならず、行政運営の根底に据えるべき事柄であり、地域自治、住民自治を進めるうえでの基本に据える必要がある。

―以上―